

### 1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2993200019	
法人名	ウェルコンサル株式会社	
事業所名	フレンド王寺	
所在地	奈良県北葛城郡王寺町本町1丁目7-41	
自己評価作成日	平成26年4月3日	評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地条件を最大に生かし、日差しを多く取り入れ、フロアの雰囲気は明るい。建物内は程良い狭さが機能的で、利用者様の視覚的安心感や、落ち着きの素となっている。  
 又、毎月、事業所全体でイベントを開催しており、その他にも個々やグループ単位でレクを行っている。役所や自治会、ご近所など、地域との関係は良好で、ご近所さんも気兼ねなくトイレを借りに来られる。自治会長さんも、災害時には駆け付けたいのでホームの火災報知機などのサイレンを外に取り付けられようか?とも、言って下さっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設3年目の新築のグループホームで、「明るい」「楽しい」「美味しい」をモットーにしている。開かれた事業所をめざして、利用者も職員も開放的である。事業所の強みは“地域からの協力”で、今年4月に着任した管理者は地元出身であり地域に精通しており、周囲の家の協力や自治会の情報も得て、利用者は良質な見守りのなかで生活している。法人の職員研修も積極的で、OJT(現場で知識や技術を身につけるトレーニング方法)に力を入れており、“職員自らスキルアップする”というのが今年の目標である。職員は毎年4月に家族アンケートを実施し、利用者・家族の意向を聞きながら、“グループホームだからこそ出来ること”を考え、利用者一人ひとりの生活を大切にしている。地域に期待される事業所である。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成26年5月9日

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念 ご入居者の心と体に寄り添い、安心できる生活をお手伝いします。 ご入居者の尊厳を守り、自立を支援します。 地域に開かれたホームを目指します。 全共通の理念に基づき毎年事業所年間目標を設定し、達成するための取り組みを行っている。年間を通しての評価も行っている	法人の基本理念に加え、フレンド王寺独自で「プロのいる家庭」という理念を掲げるとともに、「明るい」「楽しい」「美味しい」をモットーに職員はその理念を共有し、日常生活の場で実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会総会の出席やクリーンキャンペーンなどにも出来る限り参加させて頂いている。お天気の時はホームの玄関前の駐車場で体操したり、お茶を飲んだりして道行く方々に気軽に挨拶をしたり話したりする。何度か公民館をお借りして催し事をさせて頂いた。	地域に開かれた事業所として周知されており、自治会長や民生委員の訪問がよくある。今年4月に着任した管理者が地元出身であり地域の情報に精通しており、自治会の地蔵盆や町内清掃にも利用者とともに参加している。	ホームの駐車場でやっている朝の体操に、近所の方たちをお誘いして一緒に体操するなど、地域の方とのふれあいの場づくりがあればよいと思われる。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて	毎年9月にフア子会を開催し、事例研究を地域の他の事業所やご家族、地域の人々に向けて発信し交流を深めている。又、昨年6月には地域包括とタッグを組み、自治会公民館で介護予防講座を開催した		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議は奇数月の第三水曜日の午前10時から開催している。自治会長さんからは地域の歴史や独特の習わし等を教えて頂いたりして、利用者さんとのコミュニケーションに役立てている。	運営推進会議は役場保険課係長、民生委員、自治会長、家族が参加し2か月に1回開催している。事業所から行事や日々の活動などを報告し意見をもらっている。最近では、事業所の外灯を近隣の安全のため夜12時まで点灯してほしいと民生委員から要望があり、迅速に対応した事例があった。	会議に家族の参加が少なくい。事業所が提供するサービスの内容や利用者の様子などをもっと知ってもらい、家族が意見を言える有意義で魅力のある運営推進会議にする取り組みを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	王寺町にはグループホームの現状を密に報告し、指導を頂いている。又、月1回介護相談員を派遣して頂いている。運営推進会議の議事録やグループ内の新聞を届けて担当者と連絡を取り合っている。	町役場へは、利用者の入退院や骨折事故の実情を伝え、新規相談等もタイムリーにしている。利用者の更新認定時は利用者、事業所、役場が触れ合う良い機会となっている。役場からの介護相談員の派遣は今年4月から廃止になった。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は外部研修などの参加し、学んできた内容を職員に説明、教育している。又、ケア会議や職員研修でも拘束について学んでいる。	玄関に「身体拘束ゼロ」の標語を掲げ、全職員に周知徹底している。管理者は研修を積み、点滴針を抜こうとする利用者につき添う、利用者が一人で立ち上がれない椅子は置かない、言葉の拘束をしないなどのケアの実践に取り組んでいる。ユニット入口の施錠や居室の窓のストッパーの設置については利用開始時家族に安全のためと説明し、了解を得ている。	安全のための鍵かけが当然のようになされていないか、利用者一人ひとりに予測されるリスクを話し合いながら、利用者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしをするための工夫を重ねていくことが求められます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は外部研修を通して学んできた内容を職員に説明、教育している。又、ケア会議や職員研修でも事例検討会などの取り組みを行っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修に参加し、権利擁護について学んできた内容を職員に説明、教育している。成年後見制度を利用される方にアドバイスなどもさせてもらっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、利用契約書を文章で示し、声に出して読み上げ説明している。一方的な説明にならないようにし、疑問点はないか確認して行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及び職員は入居者との日頃からの対応や会話を通じて苦情・不満を汲み取るように努めている。又、苦情受け窓口について説明している。	毎年4月に実施する家族アンケートや、玄関に設置した意見箱、家族面会時に記入する「家族対応用紙」で家族の思いを聞いている。また1階に職員の顔写真と名前を掲示して、家族が職員に声掛けしやすい工夫している。	家族との意見交換の場として運営推進会議への参加を家族に呼びかける取り組みが望まれる。また、家族面会時に記録する「家族対応用紙」の“話した内容欄”や“家族からの要望欄”を活用し、家族の意見などを汲み上げる工夫が望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、それぞれのユニットの代表の意見を聞き、最終判断している。又、管理者はケア会議の議長を務め、職員の意見を吸い上げ、管理者会議などの持ち込み検討し、反映させている。	管理者はユニットリーダーと計画作成担当者を兼務しており、利用者と職員の生活場面を共有している。日常的に職員からの相談を受け、重要性がある意見は法人全体会議に諮り検討している。昨年の夏祭りでは実行委員会を立ち上げ、意見や提案が活発に出された。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と幹部従業員が参加する会議を不定期に設けており、職場環境などの不具合の発生には早急な対応を図れる様にしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を導入しており、グループ専用のチェックリストを用いてOJTを進めている。又、OJT指導専門委員がそれぞれの事業所に出向き、OJTの進捗状況の把握、指導にあたり、職員のスキルアップを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は普段から他施設だけでなく、近隣のグループホームにも足を運び、交流を図っている。先日もオープン間近のグループホームの管理者が見学に来られ、地域運営推進会議にもオブザーバーとして参加して頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関する問い合わせがあった場合、初期面談には、利用を前面に推し進めるのではなく、まず、ご本人が困っていること、不安なこと、要望などを傾聴するように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関する問い合わせがあった場合、初期面談には、利用を前面に推し進めるのではなく、ご家族のご苦労や、努力、おかれている状況に共感し、困っていること、不安な事、希望や要望などを傾聴するように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所に直接相談がある時は、相談内容を十分に吟味し、その方にとって本当にグループホームの支援で良いのか見極めるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、食事の準備など手伝って頂いたり、役割を分担して頂いたりして、暮らしにハリを持ってもらえる様に努めている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から連絡を密にとる様にしながら、月1回はスタッフからの一言通信(生活の様子をまとめたもの)や写真、ウェル便りを送付して、本人と家族との絆を大切に守っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人の方にはいつでも気軽に面会に来て頂けるよう配慮している。外出外泊でご家族と過ごされる時は、健康状態の説明や定期薬を渡し忘れないよう注意している。	利用者は近隣の方が多く、友人が面会に来たり、家族が馴染みの散髪屋へ連れて行ったり、歩いて面会に来られる家族もいる。友人に電話をされている方もいる。職員は利用者が行きたい場所やしたいことを聴き取り、それを実現するよう努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題で会話が弾むように常に入居者同士の人間関係を把握しながら、孤立しそうな利用者をいち早く救えるようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院から回復が見込めずホームを退去された方がいるが、家族様の許可を得てスタッフがお見舞いに伺っている。利用者様の手作り折り紙等をお渡しするなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のご意見や想いに沿った暮らし方をしている。その方の生活歴や習慣も掘り起こし、その人らしい個性を尊重している。	利用前に自宅を訪問し、利用者が日常どのような暮らしをしてこられたのかを聴き取り、習慣や好みなどを把握している。アセスメントを6ヶ月毎に見直し、回転ずしに行きたい、何か手仕事をしてほしいなど本人・家族の希望を追記し、情報を得ている。	以前使用していた“ひもときシート”(より細かなアセスメントの記録)を復活させ、利用者全員でなくても必要である方について作成し、日々のケアや介護計画に反映させることを提案します。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	“ひもときシート”等を用いてその方の想いに寄り添ったアセスメントをとっている。ご家族やご友人からも昔のエピソードを聞きだし、ケアに反映している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントと特別のスタッフ間で共有している。また、日々の介護記録に日々のご様子を記入しており、スタッフ間で情報共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活から入居者の意見や要望を聞き、家族様の面会時には積極的に意見を伺うようにしている。又、毎月のケア会議では“個々のケア”という議題を設け、多くの目で見たその方のデータを基に、介護計画を作成している。	毎月のケア会議で一人ひとりの利用者や家族の意向を大切にされた質の良いケアについて話し合っている。作成した介護計画書を家族に説明し、同意を得ている。	介護計画は3か月毎に評価しているが、ほとんどが従来の計画を継続している。グループホームだからこそ出来る、利用者が達成感を得られる具体的な目標をたて、笑顔の見える介護計画の作成が望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルを用意してにちじょうの生活の様子やバイタル他、食事の摂取量、排泄状態、Dr往診時の診断記録等を記録している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループ内に老健があるので、ご家族様による医療行為の必要な病気を患っておられてもご入居をあきらめず一旦老健に入所の上、病状を安定させてからGHに戻って頂く筋道を立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のキャンプ場を借りてバーベキューをしたり、自治会の公民館を借りてボランティアを呼んだり、町主催の音楽鑑賞会に出掛けたりしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の内科往診がある。又、他の専門医についても往診医に紹介してもらい、ご家族に連絡を取り希望があれば受診して頂いている。	現在、利用者全員が2週間に1回提携内科医の往診を受けている。心療内科や眼科や歯科などの専門医については利用者希望のかかりつけ医に通院している。家族が付き添いできない時は職員が同行している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、非常勤の看護師と週1回の訪問看護が入っており、ご入居者様の健康管理を行っている。かかりつけ医とも連携をとってもらっており、体調不良時や緊急時に対応できる体制を作っている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際も看護師に医療機関との間に入っていたり、連携がスムーズに行えるようにしている。入院時は看護師や管理者が定期的に訪問し、状態の把握に努め、退院時にDfとのカンファレンスも行えるように関係づくりをしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を策定し、重度化、終末期に入る前には往診医、看護師、職員がご家族とカンファレンスを行い、方針を決めている。	「重度化した時は家族と相談の上、医療機関で対応する」と書かれた法人の重度化対応指針があり、利用開始時に本人・家族に説明している。事業所は開設3年目でまだ看取りをした経験はない。今後は事業所での重度化、終末期の対応について全職員が研修を積み、利用者や家族の思いを大切に事業所がその時できること、できないことを検討していくなど、体制を整えている段階である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを作成し、電話機の側に置いている。また、ケア会議の中で研修として行い、スタッフに周知している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練及び消火訓練を行っている。1つは夜間想定火災による避難訓練。もう1つは日中に消防署員立会いで通報・初期消火・避難の訓練をしている。又、ご近所さんからの協力依頼も頂いている。	災害時マニュアルを職員へ周知徹底した。H25年11月実施の避難訓練時で利用者が外に避難するのに、1階は約3分、2階は約6分程の所要時間であった。スプリンクラーは設置している。3人の職員が近隣に住んでおり緊急時に対応できる体制がある。また、近隣の方からの協力申し出もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
みみ					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア内でのトイレの声掛けや排泄に関する話題には配慮し、声掛けを行っている。入居者の個性、人格を尊重した対応を心掛けている。	職員は、トイレ介助時にはドアの外で待つ、入浴は同性介助を心がける、耳が遠い方には強い口調にならないよう配慮するなど一人ひとりの尊厳を大切にケアしている。また、挨拶、身だしなみにも気をつけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択や献立の希望をお聞きしたりしている。レクへの参加も強制せず、ご本人の希望や状態などを見て声掛けしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務は決まった時間に縛られるのではなく、入居者のペースに合わせて行っている。居室で過ごされる方もいるが定期的に職員が声を掛けに行くなどしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望による髪形や服装にしているが、いつも同じにならないように声掛けして支援している。理髪に関しては訪問美容を利用される方と家族様と一緒に近所の理髪店に出掛けられる方があり、選択できるようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家に居る時と同じように、冷蔵庫や食材庫をみて、又、利用者様にもお尋ねし、毎日の献立を決めている。準備、片づけも出来る限り一緒に行っている。	職員は食事作りに力を入れており、1階と2階では毎日メニューが違う。食材の重いものは業者に配達してもらい、生ものはスーパーで見え買い、新鮮で旬の食材を使って料理し、色取りにも気を配っている。カロリーを制限されている方が多く、体重測定しながら、月1回栄養士がカロリーチェックしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取カロリー、水分量、栄養、バランスの情報を共有して管理している。食事摂取量や水分摂取量の記録を基に摂取量が減っている場合は早期に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの誘導をさせて頂いている。義歯をつけておられるかたは夜間は外していただき、消毒している		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄表を作り、昼夜のトイレ誘導を行っている。後始末が不十分な利用者様も出来るだけご自身でして頂き、最後にスタッフがお手伝いさせて頂く。その後しっかりと手洗いして頂いている。	排泄チェック表で利用者の排泄リズムをつかみ、トイレ誘導を行っている。夜間にポータブル使用の方がいる。排便の後始末は不完全でも自分でしてもらい、自立にむけた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ食材、毎日のヨーグルト、腸の働きを促す体操、水分摂取量一日1000cc目標にて便秘対策をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人お一人の生活習慣を尊重し、入浴時間、回数をお聞きしている。落ち着いて入浴して頂けるように、入浴は1名ずつ、出来るだけ同性介助を行っている。	浴室・浴槽はゆったりしており、三方介助で安全な入浴介助している。マンツーマンで入浴し、利用者と職員とが親密にコミュニケーションする場となっている。希望すれば医師との相談のもと、寝る前の入浴や毎日の入浴ができる。入浴拒否の方には無理強いしないで、辛抱強くタイミングをはかり声掛けしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを大切にしながら、散歩、掃除、食事作り、体操、レクなどの日中の活動を提供することによって夜間は心地よい眠りにつける様に支援している。生活習慣でお昼寝が好きな方は、短時間の臥床時間を設けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容を勉強すると共に、薬の容量、服薬支援の方法に変更がないか毎時確認している。医師の指示通りに服薬して頂き、症状に変化があれば記録し、医師に伝えている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、調理の手伝い、食器洗い、水やり等一人一人の能力に応じて役割分担している。オセロの好きな利用者様と対戦したり、教えてもらったり楽しんで頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得たり、スタッフの配置を多くするなど、勤務体制の工夫をし、日々の散歩や買い物、誕生日レク、外食、定期的な散髪、花見、ピクニック、音楽祭などのイベントに参加して頂いている。	季節を楽しむ花見やバーベキューに出かけたり、誕生日には利用者の行きたい場所に外出支援している。法人が主催するフレンド音楽祭などの大きなイベントにも参加する。事業所近隣への散歩はよくしており、外気にも人にも触れる機会は多い	職員は利用者の外気浴に力を入れているが、その記録がない。日々の介護記録に外出の記録をつけ、利用者が外出していることが家族や職員に確認できる仕組みが望まれる。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、手元にお金を持っておられるかたはいないが、買い物レクなどの際に支払いを職員と一緒にしていただいたり、お金を使うことの支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用する際には、子機を使用し、操作時は職員がお手伝いさせて頂きながら居室にてゆっくりお話しする時間を作っている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆の集まるリビングには、思い思いに過ごして頂けるようソファ、椅子を置いてお気に入りの場所を確保している。又、季節を感じて頂けるように置物や壁紙にも配慮している。	事業所のこだわりは（程よい狭さで機能的）である。利用者は風と光がよく入るリビングの白いソファ等のお気に入りの場所でそれぞれにくつろいだり、身近に窓外の道行く人を眺めたり、テレビ画面も視野に入りつつ、台所で食事準備中の職員たちと会話も楽しんでいる。五月人形工作物等が飾られ、季節が感じられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファと椅子の2つのスペースを用意して自由に行き来して過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ慣れ親しんだ家具などを持参して頂き、居室配置もお話を伺いながら、住み慣れた環境に近づけている。	居室のドアには手作りの表札がかけられている。利用者お気に入りの写真・ぬいぐるみ・家具を持ち込み、好みの配置になるように手伝っている。布団希望の利用者にはたたみを敷いている。年2回、家族が衣替えに訪れている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアはバリアフリーでほぼすべての場所へ手すりを伝って移動できるようになっている。各居室・トイレ・浴室などのドアに絵やわかりやすい文字にて表示を掲げている。		